

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」



大阪市立東中浜小学校
令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

生活指導面では、授業中と休憩時間の区別をつけた行動ができるなど、落ち着いた雰囲気で、ほとんどの児童が学校生活を過ごしている。

また、児童間のトラブル解決 100%を実現できるよう学校運営に努めた。教職員の気づきや傾聴の力、不登校児童の対応力等を高めるため、SC を活用した研修会を実施し、日々の教育活動の中では、児童間トラブルの早期発見、早期解決、保護者との連携を大切にしながら丁寧に進めた。その結果、児童間トラブル解決 100%はほぼ達成できている。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問い合わせに、自信をもって「思う」と答えられる児童の割合は 75%と低く、今後に課題を残した。

また、社会見学や出前授業、児童会活動などの体験的・主体的な活動を積極的に実施し、自己肯定感や自己有用感の育成を図っており効果を上げている。

しかし、不登校や行き渋りの児童が増加しており、その対応では、原因が特定できない場合や保護者の価値観の多様化により、解決に時間がかかる事案が増えてきており、学級担任の負担の一因ともなっている。今後チーム学校での対応、こどもサポートネットの活用など、積極的に進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学習面では、この2年間、算数科を研究科目に選び授業研究に取り組み、算数科を好きになる児童を育てることをめざした。学力向上支援事業で月2回派遣されるスクールアドバイザーを最大限活用し、授業の進め方、話し合い活動の充実など授業力向上につなげた。また、メンター研修を積極的に実施、若手教員の授業力・指導力の向上につなげた。本年度からは、一人一台端末等を授業内でより効果的に活用できるよう研究を進めていく予定である。

経年調査の結果等では、経年で比較して学力面で向上した学年が多かった。これは学校全体が落ち着いた雰囲気の中で日々の授業が展開できており、学習にまじめに取り組む児童、それを導く教員・サポーターの頑張り、地域ボランティアを活用した読書活動の充実などが要因と考えられる。しかし、学力の二極化も顕著で、放課後の学力補充や家庭学習の保護者・児童への啓発活動も進めていく必要がある。

運動面では、「かけ足週間」や「なわとび週間」や「げんキッズ週間」などの取り組みを実施したが、学年が上がるに従い運動が好きな児童の割合や外遊びをする児童の割合の減少傾向が強く、抜本的な対策が求められる。

健康面では、手洗い・うがいの習慣は定着してきており、感染症の予防に役立った。

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台端末の活用については、教員の活用ノウハウも深まっており、授業や行事等での調べ学習やプレゼン、写真・動画・様々な学習コンテンツの利用、家庭と教室を結んだ授業のオンライン配信、学級休業時の活用など、活用の機会は益々増加してきた。本年度からは、一人一台端末等を授業内でより効果的に活用できるよう研究を進めていく。

教職員の働き方改革については、前年度、全教職員の学校内での時間外勤務の平均値は低下したが、家庭に持ち帰る仕事量は増大しており、働き方改革が進んだとは言い難い。授業研究、一人一台端末の活用、学級経営、個に応じた対応、保護者対応、各種調査や研修など教職員の抱える仕事量は増大しており、教職員の負担感はピークに達している。本年度、校務分掌の大幅な見直し等を行ったが、今後も、校務分掌の見直し、行事・取り組みの精選、事務作業の効率化など、前例にとらわれない思い切った改革を進めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1%以下に減少させる。

令和7年度の学校アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で最も肯定的な「そう思う」の割合を80%以上に向上させる。

令和7年度の学校アンケートで「先生や友だちにあいさつができますか」の項目で、最も肯定的な「そう思う」の割合を90%以上に向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の小学校学力経年調査における全学年の国語・算数の平均正答率の対全国比を1.03以上に向上させる。

令和7年度の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。

令和7年度の学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

令和7年度の学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。

令和7年度の学力経年調査における「正しいキーワードを入力して、知りたいことをインターネットで調べることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

ゆとりの日を週に1回設定し実施する。

令和7年度末までに年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

- ◇小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 [前年度 74.9%]
- ◇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。 [前年度 89.0%]
- ◇年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 [前年度 1.1%]

学校の年度目標

- ◇年度末の学校アンケートにおいて「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 [前年度 94.6%]
- ◇年度末の学校アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 [前年度 79.4%]
- ◇年度末の学校アンケートで、「先生や友だちにあいさつができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 89%以上にする。 [前年度 88.9%]

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小学校)

- ◇小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 [前年度 3年 1.00、4年 1.11、5年 1.05]
- ◇小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 [前年度 3年 1.00、4年 1.04、5年 1.08]
- ◇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 [前年度 28.0%]
- ◇小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。 [前年度 74.7%]
- ◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69%以上にする。 [前年度 68.6%]

学校の年度目標

- ◇保健アンケート「正しい手洗いの仕方を理解し、清潔に過ごせるよう心がけていますか」に肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 [前年度--%]
- ◇給食アンケート「苦手な食べ物でも、一口は食べるよう心がけていますか」に肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 [前年度--%]

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小学校)

- ◇授業日において、児童の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く。 [前年度--%]
- ◇第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 (1 か月の平均時間外勤務が 45 時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 [前年度 57.9%]

学校の年度目標

- ◇小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 [前年度 66.2%]

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、3名の教員が年度途中に休職するなどして職場を離れ、代替講師の配置も充分でない中での学校運営であった。そのような苦しい状況で、自らの負担増も省みず、抜けた教員の穴を複数の教員がチームを組んでカバーすることで、教育活動を止めずに乗り切ることができた1年であった。また、保護者の皆様のご理解とご協力にも深く感謝する。

最重要目標1【安全・安心な教育の推進】について、日々の児童観察や教職員間の情報共有を大切にし、いじめアンケートも活用し、児童間トラブルの早期発見・早期解決に努め、児童間トラブル解決100%は、ほぼ達成できている。また、スクールロイヤーを活用した「いじめ防止の啓発」を5・6年生で行った。ただ、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問い合わせに、自信をもって「思う」と答える児童の割合は昨年度より少し向上したが目標には達せず、課題を残した。

不登校や行き渋りの児童については、「行きたくない」と言えば無理に登校させない方がよいという考え方の広がりとともに年々増加しており、その要因も多岐にわたり、学級担任の負担増につながっており、対応の抜本的な改革が必要である。スクールサポートルームの積極的な活用やスクールサポートネット・スクールカウンセラー等との連携をより進めていく。

児童会活動、社会見学、体験的な活動等を積極的に行い、「人の役に立ちたい」「自分にはいいところがある」「あいさつをする」児童の割合は高率を保ったが、「学校が楽しい」児童の割合は減少した。今後、より効果的な活動を模索しながら進めていく。

最重要目標2【未来を切り拓く学力・体力の向上】について、学習面において、今年度は初めて、学期に一度の「100マス計算デー」の実施や、「親子で学ぼう」の企画を実施し、児童に対しては基礎学力向上や学習の励みにつなげ、保護者に対しては家庭学習の啓発活動を進めた。

授業研究では、研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』を支えるICT活用」とし、全教員で取り組んだ。結果、一人一台端末を活用した授業の進め方・話し合い活動の充実などの授業力は大きく進展し、一人一台端末の活用については、教員の活用ノウハウがより深化充実し、授業だけでなく行事等での活用も増え、調べ学習やプレゼン、写真・動画・様々な学習コンテンツの利用、宿題のオンライン提出、欠席者への授業のオンライン配信、学級休業時の活用など、活用の機会は益々増加してきた。今後、授業内により効果的に活用できるよう、研究を深めていく。

経年調査では、学力面で昨年度と比較して目標には達成できなかった学年があったが、複数年度で経過を見た場合は、どの学年も大きく伸びており、これは学校全体が落ち着いた雰囲気の中で日々授業が展開できており、学習にまじめに取り組む児童、それを導く教員・サポーターの頑張り、地域ボランティアを活用した読書活動の充実などが要因と考えられる。

体力面では、シナプソロジー研修を実施し、積極的に活用を図るとともに、げんキッズ週間・縄跳び週間・かけあし週間の設定、多数の運動に関する動画作成による一人一台端末での視聴など、運動に対する児童への啓発活動に力を入れた。「運動やスポーツが好き」な児童の割合は目標に少し届かなかったが、寒さの厳しい日でも休み時間には元気に外遊びをする児童の増加や、体育の授業で苦手な種目にも前向きに取り組む児童の増加など、明らかに効果があった。

健康・衛生面では、手洗いキラピカ週間や保健委員会を中心とした啓発活動を活発に行い、その結果、児童の意識は大いに向上し、インフルエンザなどの感染症の大流行の時期もあったが、学級休業は最低限におさえることができた。

食育の啓発も活発に行い、「苦手な食べ物でも食べるよう心がけている」児童の割合は目標を大きく上回ることができた。

最重要目標3【学びを支える教育環境の充実】について、児童の日々の一人一台端末の活用は目標を上回ることができた。また、図書ボランティアの積極的活用や図書委員会も活用した読書に対する啓発活動も一定の成果を上げた。

しかし、全教職員の学校内での超過勤務の平均値はやや低下したが、教職員の働き方改革が進んだとは言えない。働き方改革・業務の削減と言わながら、学級経営、授業準備・授業研究、一人一台端末の活用、友だち間のトラブルに対する丁寧な対応、登校し辛い児童への対応、保護者対応、行事等の準備、各種調査や研修など教職員の抱える仕事量は益々増大しており、特に学級担任の負担は限界を越えている。一人一台端末の活用も大いに進んだ反面、機器トラブルも増加の一途をたどっている。ICT支援員の常駐やサポーターの増員が望まれる。

今後も校務分掌の見直し、行事の精選、事務作業の効率化など、抜本的な改革を進めていく。

これからも本校のすべての児童が、良好な友だち関係を築き、休まず笑顔で登校でき、日々意欲的に学び成長していく学校となるよう、教職員の働きやすい環境を整えながら、全教職員で全力で取り組んでいきたい。

大阪市立東中浜小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
------	------

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】	
全市共通目標(小学校)	
◇小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。	【今年度 77.5%】△ [前年度 74.9%]
◇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。	【今年度 78.4%】× [前年度 89.0%]
◇年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	【今年度 3.2%】△ [前年度 1.1%]
学校の年度目標	B
◇年度末の学校アンケートにおいて「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。	【今年度 95.0%】○ [前年度 94.6%]
◇年度末の学校アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。	【今年度 77.5%】△ [前年度 79.4%]
◇年度末の学校アンケートで、「先生や友だちにあいさつができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。	【今年度 90.0%】○ [前年度 88.9%]

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】	
◇学期に一回いじめアンケートを実施し、その結果を生活指導連絡会や職員会議後の児童理解研修会などの児童の実態を把握できる場で、全教職員で共通理解を図る。また、少なくとも学期に一回はいじめ根絶のために、いじめ対策や自己肯定感を高める内容の道徳の授業を全学級で取り組む。	B
指標	
◇小学校学力経年調査において、①「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、②「学校に行くのは楽しいですか」に対して、①最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を85%以上、②肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。	【今年度 ①77.5% ②78.4%】△× [前年度 ①74.9% ②89.0%]

取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】
 ◇学校・保護者・地域との連携を密にするとともに、区役所、警察等の学校内外の専門的な機関とも連携を密にして安全、安心な学校の構築を目指す。

指標

◇年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【今年度 3.2%】△【前年度 1.1%】

C

取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】
 ◇社会見学や出前授業などの体験的な活動を積極的に行い、社会の仕組みを学んだり、様々な人と出会ったりすることにより、社会や人の役に立とうとする心を育む。また、道徳や学級活動の時間などを中心に、児童の自己肯定感を育む取り組みを行い、身近にある人権に関することに関心をもてるようとする。

指標

◇年度末の学校アンケートにおいて、①「人の役に立ちたいと思いますか」、②「自分にはいいところがある」の項目に肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。

【今年度 ①95.0% ②77.5%】○△【前年度 ①94.6% ②79.4%】

B

取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】
 ◇児童会活動や様々な取り組みを通して、児童にあいさつをするよう意識させ、校内や校外で出会った人にあいさつできるようにする。年に2回、児童会であいさつ運動に取り組み、より積極的にあいさつできるようにする。

指標

◇年度末の学校アンケートにおいて、「先生や友だちにあいさつができますか」の項目に対して肯定的に答える児童の割合を89%以上にする。

【今年度 90.0%】○【前年度 88.9%】

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①指標①は前年度よりは上回ったものの目標を下回った、指標②は目標を下回った。「いじめ（いのち）について考える日」に全校集会を開き全児童に講話を行った。また、道徳の授業で教材を工夫して使用する週を設定し、「いじめについて考える」取り組みを行った。その後に、いじめアンケートを実施することでいじめについて深く考える機会をつくることができた。なお、月に一回程度といじめアンケート後には生活指導連絡会を開催したり、毎月の職員会議後の児童理解研修会を開催したりすることで、児童の学校での様子を教職員間で共通理解を図ることができた。大阪市や城東区のスクールロイヤーにいじめについての出前授業を依頼した。これにより、「いじめはだめ」だという考え方を児童にもたせることができた。

②「年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる（前年度1.1%）」に対し、今年度の不登校に当たる児童は17名であり、536名の本校では3.2%を占めていた。「行きたくない」と言えば無理に登校させない方がよいという考え方の広がりと本年度より不登校の基準をより厳格にしたことが大幅な増加の一因である。不登校の個々の要因については、友人関係に課題を抱えている児童や家庭事情、学力不振、無気力等が挙げられる。不登校の対応では普段から担任を中心として保護者と密に連絡を取り合うことができた。その状況を担任だけで抱え込まず区役所やこども相談センター、スクールカウンセラーとも連携することで、児童や保護者が安心できる学校づくりを進めた。また、夏季休業中に警察と連携して防犯研修を実施し、安全な学校づくりにも取り組んだ。

③各学年で、社会見学や出前授業などの体験的な活動を行い、規範意識や人権感覚を高めることができた。年度末の学校アンケートの結果は、指標①「人の役に立ちたいと思いますか」が 95%、指標②「自分にはいいところがある」が 77.5%だった。指標①は目標を達成できたが、指標②は目標を達成できなかった。

④児童会で、各学期に 1 回、あいさつ運動に取り組んだことで、積極的にあいさつをする児童が多く見られるようになった。年度末の学校アンケートの結果は、90%で、目標を達成した。

次年度への改善点

①いじめアンケートでは低学年や中学年ではとくに普段の話で解決できるのに、わざわざ書いている児童が散見された。命に関わるいじめのことなので、今年度の取り組みを次年度も継続していく必要がある。その中で、全校集会や各学級での活動の中でいじめとは何か、と定義を理解させることなど取り組み内容の精査が必要である。例えば、いじめアンケートではいじめのことについて、普段先生には直接伝えづらい内容は、学びのポータル内の「相談機能」で行うように、併用していく取り組みをしていく必要がある。いじめアンケートも相談機能も、学校は常に開かれた学校であることを児童に伝えていく。

②不登校は社会問題として取り上げられるほど、その要因が多様になってきており、学校だけで解決するのは難しくなってきており、引き続き保護者やデイサービス等を含む関係諸機関と綿密に連携をとっていく必要がある。またスクールカウンセラーを活用した不登校児童理解研修を実施したり、新たに生活指導連絡会とは別の「不登校児童連絡会」を学期に一回程度開催し、不登校児童の状況把握や理解につなげたい。そして、スクールサポートルームを活用した対応を検討していく。

③児童が、自分のいいところに気づくことができるような取り組みを行っていく必要がある。例えば、全校でいいところ見つけを行い、月に 1 回は全員が Forms で入力する日をつくり、結果を掲示する活動が考えられる。また、ペア学年で一緒に遊ぶ日を設定するなど、交流する機会を増やしていくことも望ましい。

④あいさつ週間とそれ以外とで、あいさつに差が見られたり、「おはよう」以外のあいさつがあまりできていなかったりする。あいさつについての掲示物を作ったり、集会や放送で呼びかけたりと、さらなる啓発をしていく。また、「ありがとうの木」をつくって、「ありがとう」という言葉を意識できるようにしたり、下校時、看護当番などの教職員が門に立ってあいさつすることで、「さようなら」のあいさつも積極的にできるようにしたりすることも検討していく。

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
全市共通目標(小学校)	
◇小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	[今年度 4年 1.02、5年 1.04、6年 0.97] △ 〔前年度 3年 1.00、4年 1.11、5年 1.05〕
◇小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	[今年度 4年 1.03、5年 1.06、6年 1.00] △ 〔前年度 3年 1.00、4年 1.04、5年 1.08〕
◇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上にする。	[今年度 27.7%] △ 〔前年度 28.0%〕
◇小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。 [今年度 68.8%] × 〔前年度 74.7%〕	B
◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69%以上にする。	[今年度 65.5%] × 〔前年度 68.6%〕
学校の年度目標	
◇保健アンケート「正しい手洗いの仕方を理解し、清潔に過ごせるよう心がけていますか」に肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。	[今年度 90.0%] ○ 〔前年度--%〕
◇給食アンケート「苦手な食べ物でも、一口は食べるよう心がけていますか」に肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。	[今年度 95.0%] ○ 〔前年度--%〕

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ◇学力向上に効果的な授業実践やICTの活用方法について、教職員間で情報共有を図る。また、話し合い活動を積極的に取り組む児童を育てる。	B
指標 ◇低・中・高学年それぞれ1本ずつの研究授業と、全教員が公開授業に取り組む。長期休業中（夏季休業・冬季休業など）に、教職員の授業力向上のための研修を実施する。	〔達成〕○

取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
 ◇児童の基礎的・基本的な学力の定着を図るために、学校全体で取り組む。また、家庭学習の啓発に努める。

指標

◇学校全体で基礎的・基本的な学力の定着を図るためにの施策に年1回以上取り組む。また家庭への家庭学習の啓発のための施策を年1回以上取り組む。

【達成】○

B

取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】

◇なわとび週間やげんキッズ週間を実施し、体を動かすためのきっかけづくりの場を設け、運動する習慣をつける。運動委員会や体力向上推進員会で、教室でも体を動かせるようなストレッチやシナプソロジーの動画をつくり、毎日元気に過ごすことができるよう啓発する。

指標

◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。

【今年度 65.5%】×【前年度 68.6%】

B

取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】

◇保健委員会で、手洗いに関する動画や音楽をつくり、毎日清潔で元気に過ごすことができるよう啓発する。

指標

◇保健アンケート「正しい手洗いの仕方を理解し、清潔に過ごせるよう心がけていますか」に肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【今年度 90.0%】○【前年度--%】

A

取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】

◇各学年、年2回以上栄養指導を実施したり、栄養職員が調理実習など各学年の食に関する授業に関わり、より専門的な知識や技術を児童に指導したりすることで、食に興味をもてるようとする。

指標

◇給食アンケート「苦手な食べ物でも、一口は食べるよう心がけていますか」に肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【今年度 95.0%】○【前年度--%】

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 計画通りICTを活用した研究授業を進めることができた。特に複線型学習を取り入れた学習に取り組むことができた。またICT活用に関わった研修も進めた。家庭学習においても、音読学習などICTを活用した。その結果、ICTを積極的に活用し、どの学年の児童においても活用技術が向上している。また教職員のICTスキル向上においても有効的な学びになった。
- ② 全校児童で100マス計算を取り組んだ。100マス計算は応用が可能なことから、特別支援児童も取り組みやすく、効果的だった。児童と保護者がいっしょに学習する取り組みも進めた。保護者から好評で、家庭学習の啓発に繋げることができた。初めての取り組みの中、身近なことで児童の学力向上への取り組みを進めている。

- ③ 放送での呼びかけだけではなく、たくさんの種類の動画を作成し共有することができた。そのため、運動が苦手な児童でも外に出て元気よく遊んでいる姿が見られ、運動量が増えた。運動委員会の縄跳びの動画をみて、挑戦してみようと苦手な種目にも前向きな児童が増えた。
- ④ 「手を洗う」ことを推進するのではなく、動画の中でバイキンの話を入れて手洗いの大切さと重要さを呼びかけた。そのため、清潔にしようという意識が高まり、手洗いを励行することで感染症が大流行することもなく、学級休業になることも最小限に留まった。
- ⑤ 各学年、学期に1回の栄養指導を行った。給食週間では、調理員さんへの感謝のお手紙を書いたり、調理員のインタビューや調理室内を探検しているような動画をみたりすることで、食への関心が高まり残食が減った。

次年度への改善点

- ① 継続していく。ただし、タブレット端末の脆弱性に課題があり、関係機関と改善をはかる。ICT 活用だけでなく、学力向上に効果的な授業実践についても議論を始める。
- ② 継続していく。今年度おこなった取り組みに対して効果を確認し、本校のその他の課題に対しても、学力向上に努める。
- ② ○○週間が集中しており、慌ただしすぎた。分散させるのが難しければ厳選し、それぞれの○○週間に児童も集中できるようにする。体を動かす習慣をつけるため、雨の日でも教室内で体を動かす定期的な取り組みをしていく。
- ④ キラピカ週間だけではなく、日々手洗いや清潔に過ごす意識できるように、手洗いの歌をかけたり、放送などで呼び掛けたりする。
- ⑥ アンケート結果より、「一口食べるよう心がけて」はいるが、実際に食べているかどうかは疑問である。そのため、栄養のことも考え食べることができるようしていく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】	
全市共通目標(小学校)	
◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。 【 今年度 52.0%] ○ [前年度--%]	B
◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 【 今年度 58.3%] ○ [前年度 57.9%]	
学校の年度目標	
◇小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 【 今年度 67.5%] △ [前年度 66.2%]	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ◇教科書記載のQRコードから読取れるコンテンツやデジタルドリル、調べ学習等児童が日常的に学習者端末を学習に活用する場面を設け、日々活用していく中で個別の学びや協同的な学びの実現ができるようにする。	B
指標 ◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。 【 今年度 52.0%] ○ [前年度--%]	
取組内容②【基本的な方向7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】 ◇学年等の小グループで意見をまとめ、本会議（職員会議）でのスムーズな議事運営を図るなど、事前検討に時間を割き少人数での周知や検討を行う事により、会議時間の圧縮や活発な意見交換を目指す。	B
指標 ◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 【 今年度 58.3%] ○ [前年度 57.9%]	
取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】 ◇ 次に挙げる方策で本に親しみ興味を持てるような機会を作る。 1 様々な場面での読み聞かせ活動。 2 年1回の読書週間の催し。本の紹介やがんばりカードなど。 3 図書委員会による図書開放の活動や、クイズ等のイベント。	B
指標 ◇「読書は好きですか」のアンケートに肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 【 今年度 67.5%] △ [前年度 66.2%]	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①「心の天気」やデジタルドリル等で日常的にICT機器に触れる機会を設け、調べ学習や複線型学習を用いた課題でICTの活用を図れた。指標は12月末時点で52%で目標を達成している。
②事前に少人数で意見交換がしやすくなり、本会議の時間は短くなったが、小会議の負担は大きくなっている。指標は1月末現在58.3%でやや改善された。
③読み聞かせや様々な催し、「本のおくりもの」等の図書委員会活動により読書への興味を持たせることはできた。指標は67.5%と目標の70%にはあと一步届かなかったが、昨年は超えることはできた。
次年度への改善点
①端末の動作不良やネット環境の不具合で活用できないことがあり、環境整備が必要。またICT支援員等の常駐によるサポートを切に期待する。 定期的にICT活用事例を共有しあう場が必要である。
②部会等で話し合われている内容や結果を、共有したり重なり等を精査できるように、企画会の様に全体を見渡せる機会を、ICTの活用を含めて検討する。案件について反省を共有し次回改善点を整理・申し送りし、立案の労力を減らすような方策が必要。 動画の効果・必要性について再検討が必要。
③人気の本に偏りがあるので、多様な本に触れる機会をつくる。 デジタルの読み物を導入してはどうか。 低学年での取組に力を入れれば、いずれ高学年でも読書好きが増える。

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東中浜小学校 学校協議会

1 総括についての評価

「自己評価結果の総括」は、概ね妥当である。

- 代替講師の配置が充分でない中、子どもたちのために全員の先生方や職員サポーターの先生方でカバーし合って、日々の学校生活を守ってくださったことに心から感謝申しあげます。

2 最重要目標ごとの評価

最重要目標1 安全・安心な教育の推進

「自己評価結果」は概ね妥当である。

- いじめの問い合わせに対して最も肯定的な回答をしなかった理由を知りたいと思いました。絶対にいけないことだとみんな分かっていることなのに、それでもそう言い切れないのは、なぜか、そこに問題点があるような気がします。
- 不登校や行き渋りの問題は、今後益々増加していくかと思われます。親自身、子どものころと世の中の考え方方が大きく変化しているため、戸惑いながらの毎日ですが、健やかに成長していくよう、一緒に歩んでいきたいと思います。

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

「自己評価結果」は概ね妥当である。

- 体力向上のために、「なわとび週間」や「げんキッズ週間」等の実施をしてくださっていることで、学校では体を動かす機会がありますが、帰宅した後は、タブレットやゲームをすることが多く、外遊びの時間が少なくなっていることが多いので、声かけをして一緒に体を動かす機会を作りたいです。

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実

「自己評価結果」は概ね妥当である。

- 表に見えないところで、教職員の方々は、日々膨大なお仕事をされているので健康面やメンタル面が心配です。子どもたちのために保護者としてできることは、教職員の方々と共に取り組んでいきたいと思っております。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 日々お忙しい中、子どもたちのために奮闘してくださり、本当にありがとうございます。保護者としてできる限り協力させていただきたいと思っておりますので、今後とも何とぞよろしくお願ひ致します。
- 学校教職員の方々の日々のご苦労に感謝しています。大きなご負担が少なくなりますよう、人員の増加などがあって、本来のお仕事がより進みますよう願っています。
- 学校だけでなく、地域連携の強化や私たち保護者も何か出来ることがあれば、協力していきたいと思います。